

---

---

## ホットニュース(平成17年度／第86号)

---

---

### ●今月の業界ホットニュース／都市計画の見直し

下北沢で、小田急線の地下化事業に合わせて、駅前広場およびアクセスする幹線道路の整備の動きがある。ところが、この街は今路地で構成される若者にも人気の街として賑わっており、街の構造が変わり雰囲気を壊すものとして、一部で反対の声が上がっていることは新聞でも取り上げられた。

これはたまたま近くに古くから都市計画決定されている道路があったために、鉄道連続立体事業という大規模事業に合わせて、部分的に整備することになったのであろう。現在の街の構造や利用のされ方から見ると、異質な感は否めない。

このことは、下北沢に限らずいろいろなところで起こっている問題といえる。都市計画道路の骨格は、ほとんどが40～50年前の高度成長期に、当時の道路網を踏まえて、モータリゼーションの進展を睨んで計画されたものである。これがネットワークとしてほぼ完成していれば、現在の交通問題の解決に大いに寄与していただろう。ところが、都市計画道路の整備率はようやく50%を越える程度で、ネットワークの力はなかなか発揮できないというのが現状である。

このネットワークの完成に、あと50年以上も掛かるとすると、このネットワークが本当に必要かという疑問が湧いてくる。人口減少時代に入り、かつ高齢化が進むと、モビリティが低下し、また財政負担力も減少する。とすると、その社会構造や都市構造に合わせた計画の見直しが必要ではないだろうか。

こういう視点から都市計画を大幅に見直す時期にきているのではないかと思う。

(代表取締役 堀田 紘之)

---

---

### ●公共交通の再生

---

---

LRT(新しい路面電車)構想が全国的に展開している中で、岐阜の名鉄路面電車が廃止となった。名鉄路面電車は市民グループやNPOがその存続を求めてきたが、今年の3月をもって廃線となり94年の歴史に終符を打った。現在全国的に環境問題や少子高齢化社会への対応として、公共交通の利用促進を謳っている中での廃止である。

継続的な街づくりには、誰でもが利用できる移動手段が必要であり、子供や高齢者等も安心して利用できる公共交通の再生が必要不可欠である。今後の県や市町村の公共交通に対する取り組みが重要な課題になると考えられる。

しかし、公共交通は1事業者のみによる運営には限界あり、自治体や商店街・企業・市民との連携によりその継続性が保たれる。公共交通は少子高齢化や環境問題等将来への対応のためにも重要な移動手段であり、公共交通の再生により自動車に頼らなくても生活できる街づくりが、孫子の代へ継承できるまちではないか考える。

(第一計画部 大沼 安秀)

---

---

### ●恒例行事「柿崎なべ輪ピック」の参加報告

---

---

平成16年の第76号ホットニュースでも紹介した「柿崎なべ輪(りん)ピック」に参加してきた。

今年1月の市町村合併により上越市柿崎区となった旧柿崎町では、平成14～15年度の2ヶ年にわたり地域振興計画に携わってきたが、その具体的な成果の1つとして地域振興のまちづくりを推進する地元活動団体「ネット柿崎」の組織化があり、この組織が企画開催するイベント「なべ輪ピック」がある。

このイベントは毎年のゴールデンウィークに開催するものでありその内容は、参加団体(今年は8団体)が地元食材などを活かして趣向を凝らした鍋料理の味比べを参加者の投票で競うのである。前回(第1回)は大雨にもかかわらず約1千人が集まったが、第2回目の今年には快晴にも恵まれ約3千人もの集客があった。弊社の2名は家族連れで第1回から参加しているが今回も同様に楽しんできた。

今回は昨年の反省点も踏まえて、会場レイアウトや開催プログラムなどに改善を加えてパワーアップしていた。おそらく今後も演出内容などに磨きをかけて来年にも楽しさ倍増のイベントを魅せてくれると思う。こうして回を重ねるに従い円熟の伝統行事へ発展していくことを期待したい。

そして、その契機となる計画策定に関与するとともに、毎年家族を連れて当地へ出かけ、仲間と言える地元関係者と共に楽しめる幸せは、我々プランナー冥利に尽きるのである。

来年のゴールデンウィーク5月4日に時間の取れる方々は是非、上越市柿崎区で第3回なべ輪ピックを堪能して下さい！と宣伝して、今回の報告を終えます。

(第二計画部 海口 晴彦)

アルメックホットニュース(平成17年5月16日発行)

////////////////////////////////////